



金毘羅参詣の道 丸亀街道

東日本建設業保証株式会社
建設産業図書館
江口知秀
Tonohide Eguchi

丸 亀城の本丸にたどり着くと、やはりそこには小さな天守しかなかった。三重三層だそうで、下から見上げたときと同じく、ここでも櫓にしか見えない。明治維新までは天守の他に二層の櫓が一二基あったが、ことごとく取り壊されたという。

さて、天守台から丸亀平野を見渡すと、建物で埋め尽くされているように見える。私が思い描いていた讃岐の風景は、砂山のような形の讃岐富士と、青々と広がる水田、数多く点在する灌漑用の溜池であり、建物はまばらなはずだった。まずいことに、これからたどる丸亀街道沿いも建物がひしめいていて、歩きながらの景色は楽しめそうもない。つらい道のりになるのを覚悟しつつ、丸亀街道へと進む。金毘羅参りは江戸時代中期から盛んになり、参詣客を迎え入れるために街道が整備され、鳥居や燈籠、金刀比羅宮までの距離を示す丁石などが立てられた。この中で高松街道、多度津街道、阿波街道、伊予・土佐街道、そして私が歩くとする丸亀からの丸亀街道は金毘羅五街道と呼ばれた。

延享元（一七四四）年に讃岐出身の船宿多田屋新右衛門に金毘羅参詣船就航の許可が下りると、瀬戸内海を船で渡った参詣客が丸亀へ押し寄せるようになり、街道も発展していった。金刀比羅宮までは約

一二キロメートルと短く、しかも平坦なので五街道の中でも賑わったという。

さて、現在はどういうと、まず丸亀城を過ぎたあたりからは、歩道がない狭い車道が続き、交通量もそれなりにあるので落ち着かない。また、思ったとおり街道沿いは建物が立ち並び、ときどき讃岐富士が垣間見える程度で面白くない。

その先は、県道四号線と合流したり、外れたりしながら丸亀街道をたどることになるが、県道以外の細い道でも、住宅に阻まれて、やはり景色はよろしくない。さらに、ここでも断続的に車が通るので、道が細い分、ぼんやり歩くわけにはいかない。

街道の途中にある田村池や宮池、大池、宝幢寺池などの讃岐独特の溜池群を見物できるのが救いで、なかでも宝幢寺池は池の中央を通る堤の上を歩くことが出来るので、湖を渡るような気分を楽しめた。

総じて丸亀街道は地方の生活道に成り果てており、古街道の面影はわずかに残る丁石や石灯籠くらいだったが、琴平町に近づくと、ようやく景色はひらけ、小麦畑の向こうに象頭山が大きくみえた。金刀比羅宮は、あの山の中腹に鎮座する。

ようやく、ホテルにつくと一七時近くになっており、たった一二キロメートルのわりには時間もかかったし、

疲れた気がするので、万歩計を見ると二六キロメートルも歩いたことになっている。丸亀城や溜池に寄り道した分、距離がかさんだようだ。同行者は部屋に入るなり、ベッドへ倒れて動かなくなった。金毘羅さんの参道でお土産を買うのを楽しみにしていたのに、もはや閉まっているだろう。いつもこんな目にあつて哀れな人だ。それはさておき、夕食も食べてないのに同行者は動かない。どうしたものか。（つづく）



現在の丸亀街道（丸亀城の近辺 中府町付近）

〔交通〕JR丸亀駅から金刀比羅宮まで徒歩約12km